

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第7期第1回相模原市緑区区民会議		
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話042-775-8802 (直通)		
開催日時		令和4年9月6日(火) 14時40分～16時		
開催場所		橋本公民館 大会議室		
出席者	委員	21人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	15人(区長、副区長、区政策課長、他12人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 自己紹介 3 緑区区民会議について 4 会長・副会長の選出 5 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 緑区基本計画について (2) 第7期緑区区民会議の進め方について (3) テーマの設定について 6 その他 7 閉会 		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(◎は会長の発言 ○は委員の発言 ●は事務局の発言)

1 開会

会長、副会長が選出されるまでの間、緑区役所区政策課長により議事を進行了た。

また、出席委員は21人であり、会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議の公開の説明、配付資料の確認を行った。

2 自己紹介

各委員から自己紹介を行うとともに、職員の紹介を行った。

3 緑区区民会議について

事務局から、緑区区民会議の概要について説明を行った。

4 会長・副会長の選出

相模原市緑区区民会議規則第3条第2項において、「会長及び副会長は、委員の互選により定める。」と規定されていることから、出席委員に意見を求めた。

○齋藤委員

前回に引き続き、会長は牧瀬委員に、副会長は第5期から携わっており、地区まちづくり会議の代表として地域の実情に精通している宮野委員にお願いしたい。

この意見を受け、委員に諮った結果、全会一致で会長に牧瀬委員、副会長に宮野委員が選出された。

牧瀬会長、宮野副会長の挨拶の後、相模原市緑区区民会議規則第3条第3項の規定に基づき、議事の進行を牧瀬会長に交代した。

5 議題

(1) 緑区基本計画について

事務局から「緑区基本計画」に基づき、説明を行った。

(2) 第7期緑区区民会議の進め方について

事務局から「第7期緑区区民会議の進め方について(案)」に基づき、説明を行った。

(3) テーマの設定について

事務局から「テーマの設定について」に基づき、説明を行った。

その後、現在課題に感じていることやテーマにしたいこと等について、今期からの委員を中心に意見を伺った。

○河津委員

相模湖まちづくり会議では、観光と子どもたちの望ましい学習環境の在り方の2つを議論している。観光については、多くの観光客に来てもらえるような企画がなかなか出てこないのが苦労している。子どもの件については、小・中学校の通学範囲が広いことから通学の関係が課題となっている。

◎牧瀬会長

学習環境とは、学力向上なのか、もっと幅広い範囲なのか。

○河津委員

学習にかかわる広い範囲での環境である。少人数の学校ゆえのメリットを生かした上で、デメリットを克服していきたい。まちづくり会議で、相模湖地区の小学校3校、中学校2校の全家庭にアンケートをしてもらっており、現在集計中である。

○立川委員

津久井地域は高齢化が進み、子ども達の数は減少している。また、公共交通が非常に不便と感じている。将来、車の免許を返納した場合、買い物や通院の手段がなくなってしまう。路線バスと重複する経路には、コミュニティバスを走らせることはできないと聞いたことがあるが、市でこれを克服できるような案を考えていただき、実現してもらえると助かる。

○角田委員

少子化の問題であるが、鳥屋の小・中学校が来年4月から義務教育学校になるなど、今が転換期だと思っている。どうすれば若い人が残ってくれるのか、若い夫婦が引っ越して来てくれるのかを考えるのがよいと感じている。中央区や南区でも学校の統廃合問題が出てきているので、緑区でも今後加速していくと思うが、少しでも歯止めをかけられればと思っている。

○佐伯委員

旧4町の在住者は、相模原市や緑区というよりも旧4町という認識がいまだに強いと思っている。緑区に住んでいて良かった思えるまちにしないと若者は地元に残らないと思う。そのためにも地域の魅力を発信していく必要があるのではないかとと思っている。

○小野沢委員

旧4町の地域では、小規模で夫婦2人きりで商売をしている人も多く、商売と生活が一体となっている事業者がほとんどである。自分達の代で終わりと考えている人が多く、事業承継というのが課題と思っている。マッチングをしていくという動きがあるが、商売と生活が一体となっていることもあり、承継が難しい現実がある。産業界では、小規模事業者が多く、就業の場が少ないことをどう克服していくかがテーマとなっている。産業が元気にならないと地域も活性化しないと思っている。

○村上委員

2027年に橋本駅にリニア中央新幹線の駅が設置されるという期待値から、橋本駅周辺だけではなく二本松あたりまで地価が上昇している。期待されているどおりのまちになるのか、期待はずれにならないか、実態が伴うか心配である。橋本近辺の地価高騰により若い世代がローンを組めない事例があり、他市に住まざるを得ない点に危機感を感じている。新駅開業までに魅力があり、もっと活性化したまちになれば、若い世代が集まってくるのではないかと。

○米山委員

自宅前のバス路線は、1日に3本ぐらいしかないため、車がないと生活していけない状況である。リニア中央新幹線の駅ができ都心とのアクセスは良くなるが、緑区内や市内では、道路の渋滞によりバスが時間どおりに来ない、時間どおりに着かないなど、公共交通の問題が一番の課題だと考えている。また、流山市のように子育て世帯に特化するなど、何か一つのものに特化した取組を市として行うことも必要ではないかと思う。

○白水委員

2005年に移住してきたが、デメリットよりメリットの方が多いと感じている。都心から近いのに自然がたくさんあるという魅力などをもっとアピールすればと思っている。人口減少の話があったが、シュタイナー学園のように、公立の学校でも特色のある教育に取り組めば、引っ越してくる若い世代が増えるのではないかと。耕作放棄地が増加する中、就農希望の若者もいるが、猪や鹿による獣害により生活していけないという事例もあるので、これらに取り組めば移住者も増えるのではないかと。また、仕事柄、外国人旅行者に接触する機会が多いが、日本の伝統食や自然の中で遊ぶなど、体験したい外国人が多いので、いろいろな体験ができる緑区をアピールできれば、ビジネスにもつながり、人口減少の問題にも明るいきざしをもたらすことができるのではないかと。

○松平委員

これまでの緑区区民会議の成果を教えてください。

相模原市は、昨年が人口のピークでこれから減少していくと予測がされていると思う。せっかく橋本にリニア中央新幹線の新駅ができるので、橋本駅で降りてもらって、相模湖や藤野地区に足を運んでもらえるような戦略がないかと思っている。また、公共交通が不便という話があったが、緑区として特色のある公共交通のパスができないかと思っている。

●区民会議の成果については、次回の会議で資料をお示しさせていただきたい。

○日高委員

津久井地区に住んでいるが、若者の視点からいうと地域から出ざるを得ない状態だと思う。子どもの遊び場にしても声がうるさいという苦情があるといろいろと制限されたりするなど、大人の事情により遊べない環境に作り上げていると感じている。子ども達が我慢しなければならない状況などを若者が見ており、ここで子どもを産んで育てていきたいとは思えないと感じている。また、例えば、仕事で遅くなると公共交通が不便で帰れないので引っ越さざるを得ないが、一人暮らしは経済的に厳しく自分のことで精一杯で、子どもを持つ余裕すらなくなってしまっていると感じている。移住など市外から人を集めるのも大事だが、今ここに住んでいる若者たちに視点を向けることも必要ではないかと思っている。

○茂手木委員

アルバイト等が定着しない、集まらないなど、人手不足という話を聞いている。人手が不足すると安全管理や衛生管理にも支障が出てくると感じている。また、バスが1時間に1・2本しかなく公共交通が不便であるとの声を聞いている。

○齋藤委員

城山地区では、高齢者をどのように見守っていくかがテーマになっている。車の運転ができなくなると買い物や病院に行く足がなくなってしまふ。運転ができなくなってからでは遅いので、今のうちに考えておかなければならない。無理しなくても車を運転しなければならない環境をどのように改善していくのか、一人暮らしの高齢者をどのようにフォローしていくのか、高齢者は本当に免許返納ができるのかなどを考えていかなければならない。

○熊谷委員

旧市と旧津久井郡4町からなる緑区は、都市部と山間部とがうまく融合して区としてどう発展させていくかが重要と考える。また、公共交通が不便な地域の買い物支援について、机上の話だけではなく、実際に買い物支援に取り組んでみて利用者が求める内容を検討していければと思っている。津久井地区の根小屋では乗合タクシーが走っているが、利用率が下がってきており、より利用しやすい在り方を検討していきたいと思っている。

◎牧瀬会長

ある中山間地域では、自動運転の実証実験が開始されている。現在、自動運転のレベルは、レベル3（条件付き自動運転）やレベル4（自動運転（限定領域））の段階であり、2030年代には、制限なく全ての運転操作が自動化されたレベル5になると見込まれているため、公共交通の問題も解決していくのではないかと考えている。また、別の中山間地域では、自宅で診療が受けられるオンライン診療を試行しており、10年というスパンで考えれば、技術革新がある程度、諸問題の解決策になると考えられる。それまでの間をどうするかといった議論をしていければよいのではないかと。

○池田委員

佐伯委員から旧4町のアイデンティティは強いが、緑区民や相模原市民というアイデンティティはまだまだできていないという話があったが、区民会議を通じて、緑区全体で問題意識を共有しあう工夫が必要なのではと感じている。例えば、学校の統廃合は津久井地区の青根で先行事例があり、乗合タクシーについては、津久井地区の根小屋や藤野地区で事例があるので、各地域の実情を情報共有してさらに工夫していくことがあっていいのではないかと。また、公共交通の問題は、地域だけの課題ではなく全世代にかかわることであり、共通の認識として意見交換できるような機会を区民会議を通じて仕掛けていく必要があるのではないかと感じた。

○星委員

緑区の問題点を共有しあうというのはもっともであり、話し合いの中で問題点が共有できればと思う。第6期区民会議で出た課題や意見をある程度引き継いだ方がよいのではないかと。第6期の区民会議でも緑区の魅力の話があり、本日、第7期の新しい委員からも緑区の魅力の話があったので、緑区の魅力を発信して、緑区以外の人に来てもらう方策を検討してはどうかと思う。

○吉野委員

第6期で提言書が作成されているが、これを前に進めていくことも大事だと思っている。観光について、緑区は自然が豊かであり、中央区や南区にはJAXAやロボット産業があるので、これらをうまくつなげたような観光も必要ではないかと感じている。公共交通の話があったが、様々なところの工夫された事例を参考に緑区内でも実施できるようにしていくのが大事であると感じている。

◎牧瀬会長

各委員からの意見を事務局で精査し、その内容をもとに次回意見交換を進めていきたい。

精査の際は、「緑区役所が単独で取り組むことができる課題」、「緑区内の4地区以上で共通している課題」、なお、全地区に共通している課題があればベストである、そして「世代間に共通する課題」、「第6期区民会議でも出て、本日も出た6期・7期で共通する課題」という4つの視点で資料を作成していただきたい。

また、区民会議のこれまでの成果の資料を作成し、事務局から示していただきたい。

6 その他

次回会議は、令和4年11月4日（金）10時からの開催を予定

7 閉会

相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

(順不同・敬称略)

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
まちづくり会議	森 誠壽	橋本地区まちづくり会議 副代表	出席
	佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議 代表	出席
	齋藤 信夫	城山地区まちづくり会議 代表	出席
	熊谷 弘	津久井地区まちづくり会議 代表	出席
	河津 暁	相模湖地区まちづくり会議 代表	出席
	○宮野善三郎	藤野地区まちづくり会議 代表	出席
関係団体	松井 光臣	相模原市地区社会福祉協議会緑区連絡会 会長	出席
	立川 直子	相模原市民生委員児童委員協議会 常任理事 (津久井地区民生委員児童委員協議会 会長)	出席
	角田 健	相模原市P T A連絡協議会 副会長	出席
	佐伯 守章	相模原商工会議所 青年部 副会長	出席
	小野沢健二	津久井地域商工会連絡協議会 会員 (相模湖商工会 事務局長)	出席
	吉野 賢治	公益社団法人相模原市観光協会 代表理事	出席
	村上 翔一	公益社団法人相模原青年会議所	出席
	山崎 勇貴	公益社団法人津久井青年会議所 理事長	欠席
	佐藤 鉄郎	相模原市既存住宅リフォーム・改築推進協議会 事務局長	欠席
	星 和美	特定非営利活動法人ふじの里山くらぶ 理事	出席
米山 敦子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら 副代表理事	出席	
学識経験者	◎牧瀬 稔	関東学院大学法学部 准教授	出席
	池田 寛二	法政大学社会学部 教授	出席
区民	白水 敦子	公募委員	出席
	松平菜保子	公募委員	出席
	日高 彩希	公募委員	出席
民間事業者	茂手木祐介	相模湖リゾート株式会社 代表取締役社長	出席
	佐藤 賢策	東日本旅客鉄道株式会社橋本駅 駅長	欠席
	中原 正貴	神奈川つくい農業協同組合 経済部 営農経済課長	欠席

◎は会長、○は副会長